



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2545 号）

令和 7 年 10 月 31 日

兵庫県立農林水産技術総合センター

但馬水産技術センター 発行

令和 7 年漁期 ズワイガニ資源の状況

調査船「たじま」の調査結果などから見た、令和 7 年漁期における本県沖合底びき網漁船が利用する海域のズワイガニ資源の状況について報告します。

1. 推定されたズワイガニ資源の状況

但馬沖漁場（解禁直後）

本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場におけるオスガニ^{*1}の現存尾数は、前年及び過去 5 年平均並みと推定されました。また、メスガニ（クロコ）の現存尾数は、前年及び過去 5 年平均を上回ると推定されました。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ資源量は、オスガニ（甲幅 90mm 以上）が前年並みと推定されました。ただし、甲幅 120mm 以上の大型個体については少ないことが予想されます。メスガニについては、前年を上回ると推定されました。

2. 根拠となった情報

但馬沖漁場（解禁直後）

調査船「たじま」によるズワイガニ漁期前調査（調査月：10 月）

調査船「たじま」により、2025 年 10 月 2～3、6、10 日に香住沖の水深 200～350m、浜坂沖及び津居山沖の水深 235～245m に設けた計 14 定点（図 1）においてトロール網（3 ノット、30 分曳き）による試験操業を実施しました。

オスガニには、香住沖の水深 275m、浜坂沖及び津居山沖の水深 245m における入網が中心でした（表 1）。入網結果から推定された但馬沖漁場における現存尾数は 6.0 万尾で、前年比 92.3%、過去 5 年平均比は 100.3%となりました（表 2）。

メスガニには、浜坂沖の水深 245m 及び津居山沖の水深 240～245m における入網が中心でした（表 1）。入網結果から推定された但馬沖漁場における現存尾数は 23.0 万尾で、前年比 164.3%、過去 5 年平均比 123.1%となりました。（表 2）

なお、前年度及び今年度調査で入網したズワイガニの甲幅組成は図 2、入網した雄のズワイガニのうち、自主規制により漁獲対象となるオスガニの甲幅組成は図 3 のとおりです。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：4～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、2025 年 4 月から 6 月にかけて、日本海 A 海域（富山県以西）に設定した計 119 調査点において、トロール調査による資源量調査を実施しました。その結果、2025 年漁期当初の資源量はオスがに（甲幅 90mm 以上）が前年並み、メスがにが前年を上回ると推定しています（図 4）。ただし、甲幅 120mm 以上の大型のオスがにの資源量は少ないことが分かっています。

3. その他の情報

- ミズがに*²、アカコの現存尾数は、昨年に比べ非常に少ないと推定されました。特に、アカコについては、水産研究・教育機構による調査でも同様に少ないと推定されています。11 月において、それらの混獲があった場合、迅速な再放流を行い、次漁期の資源を少しでも残すことに努めてください。（次漁期には、ミズがにがオスがにとして、アカコがクロコとして漁獲可能となります。）
- 2027 年漁期以降に漁獲対象となる若齢個体の現存尾数についても、雌雄とも昨年に比べ、少ないと推定されました。若齢個体も 11 月における再放流後の生残率が低いいため、それらが混獲される海域での操業は控えてください。
- アカガレイの 1 網当たり平均入網重量は 15.2kg で、前年を上回りました（表 1）。
- 大型クラゲの入網は昨年に比べ大幅に減少しましたが、わずかながら入網が確認されています。引き続き、ご注意ください（表 1）。

以上、解禁初日の漁場選択の参考にしてください。

* 1：甲幅 105mm 以上でハサミが大きいかたがに

* 2：来漁期に甲幅 105mm 以上のかたがにとして漁獲可能な個体

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・岸本・大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

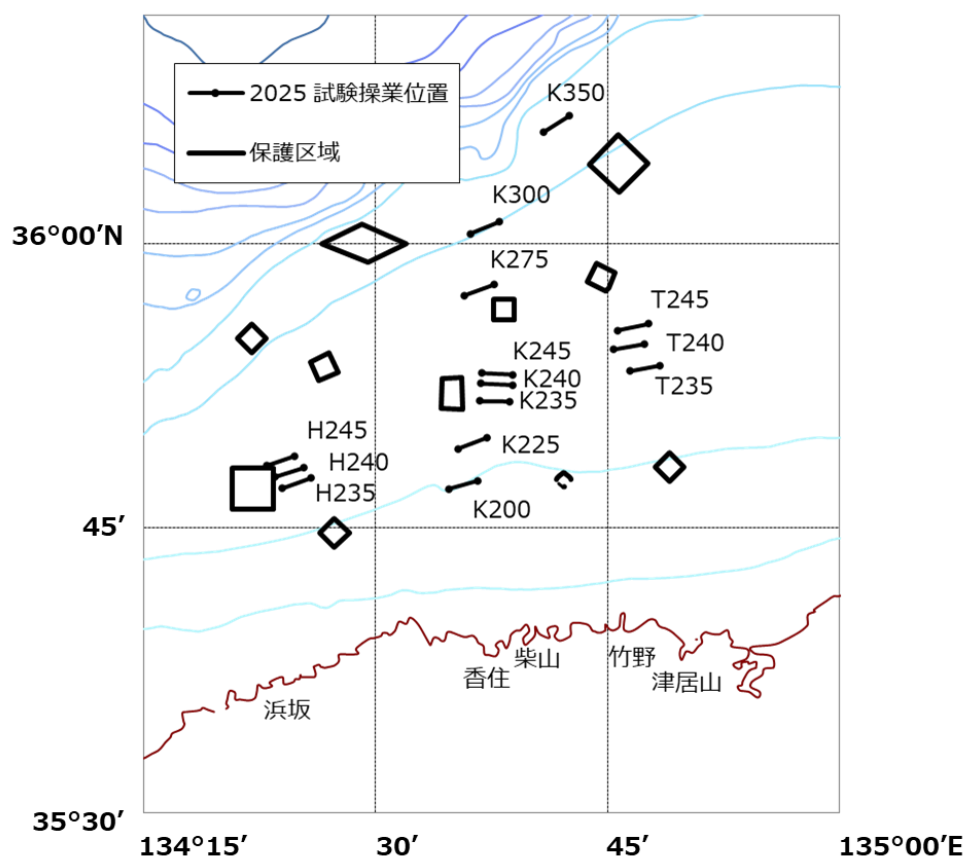


図 1 但馬沖調査海域図

表 1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (尾/網)		アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オスガニ	メスガニ		
津居山沖	2025/10/10	T245	246	10	104	10.0	33
	"	T240	240	7	134	9.6	50
	"	T235	235 → 233	7	28	3.9	9
香住沖	2025/10/3	K350	347	0	0	6.6	8
	"	K300	302 → 303	3	0	36.9	0
	"	K275	277 → 278	10	0	38.8	23
	2025/10/2	K245	249 → 243	1	36	10.1	20
	"	K240	246 → 240	0	28	10.7	62
	"	K235	239 → 231	1	41	31.8	2
	"	K225	222	3	0	18.3	0
	"	K200	199	1	0	14.8	0
浜坂沖	2025/10/6	H245	246 → 248	9	170	7.6	6
	"	H240	241	1	59	2.7	0
	"	H235	237 → 236	0	44	10.5	11

表 2 調査海域におけるズワイガニの推定現存尾数（単位：万尾）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	前年比	過去 5 年 平均	過去 5 年 平均比
オスガに	4.6	6.8	7.1	4.9	6.5	6.0	92.3%	6.0	100.3%
メスガに (クロコ)	8.8	35.7	13.5	21.4	14.0	23.0	164.3%	18.7	123.1%

※採集効率は 1.0 とし、東経 134°20′～134°50′（居組～津居山間）で水深 190～360mの範囲における推定現存尾数

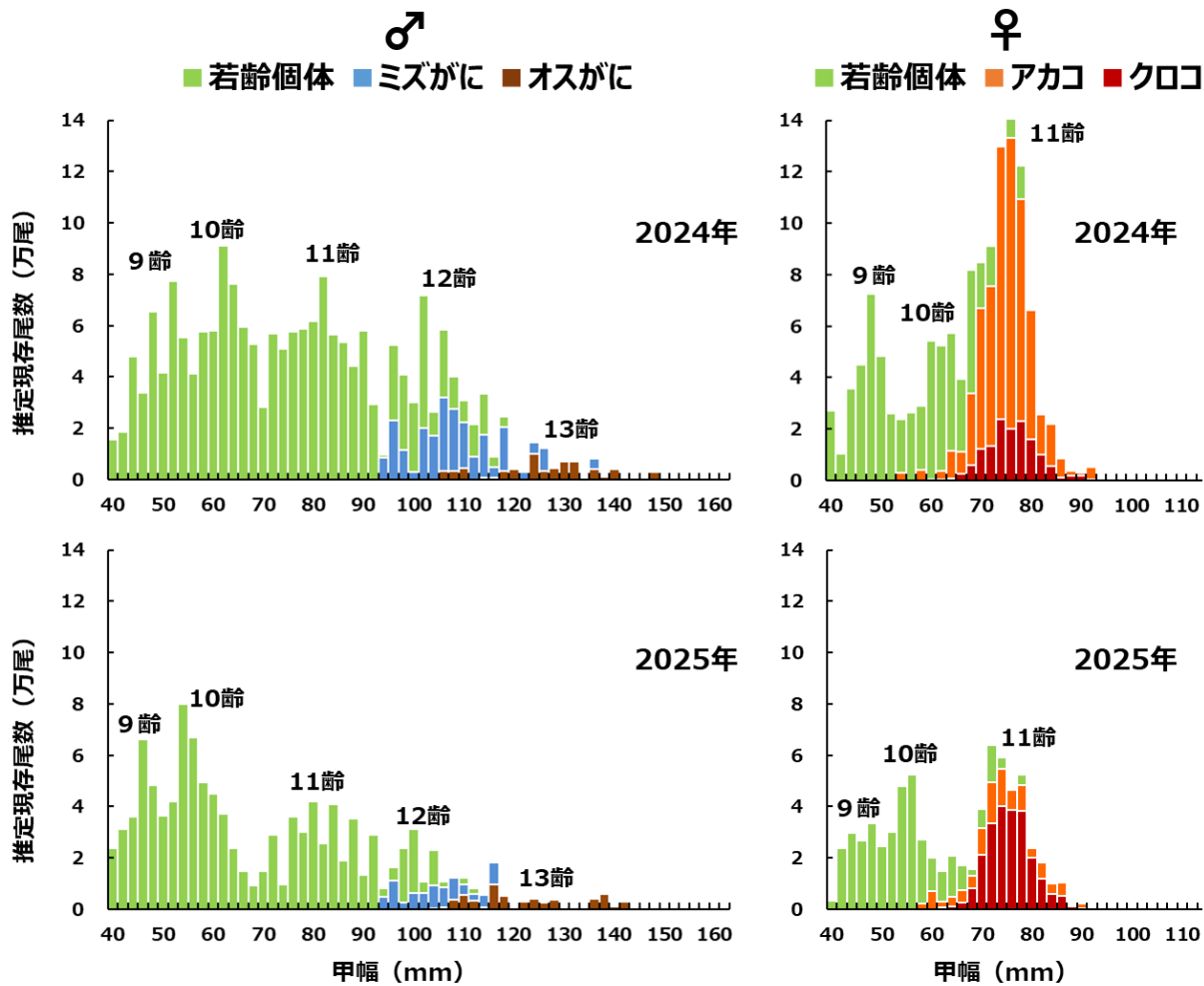


図 2 2024、2025 年のズワイガニ漁期前調査結果から得られたズワイガニの甲幅組成
(10 月、但馬沖漁場)

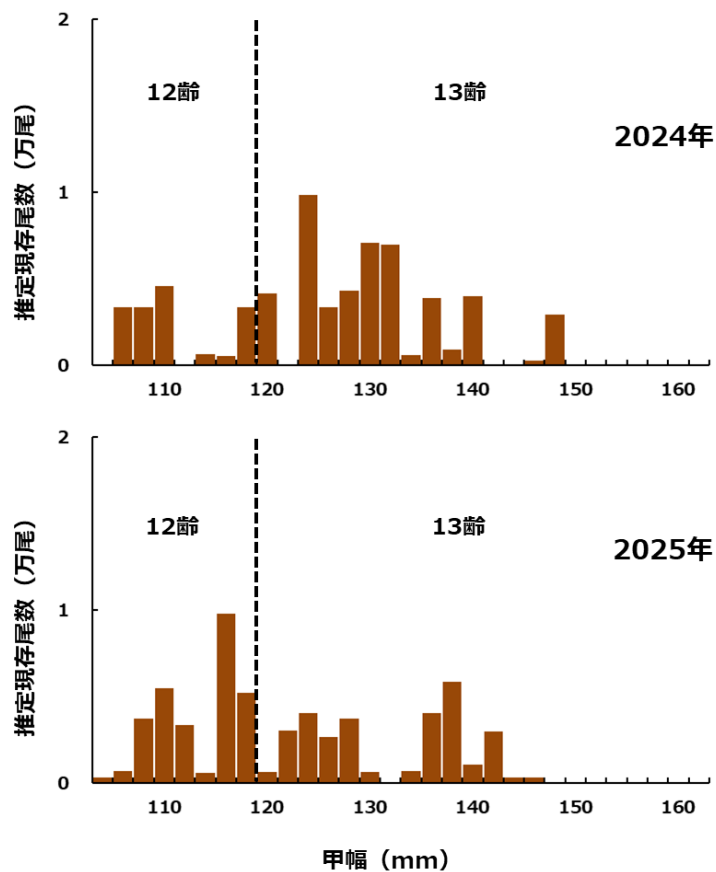


図3 2024、2025年のズワイガニ漁期前調査結果から得られた
自主規制により漁獲対象（甲幅 105mm 以上）となるオスガニの甲幅組成
（10月、但馬沖漁場）

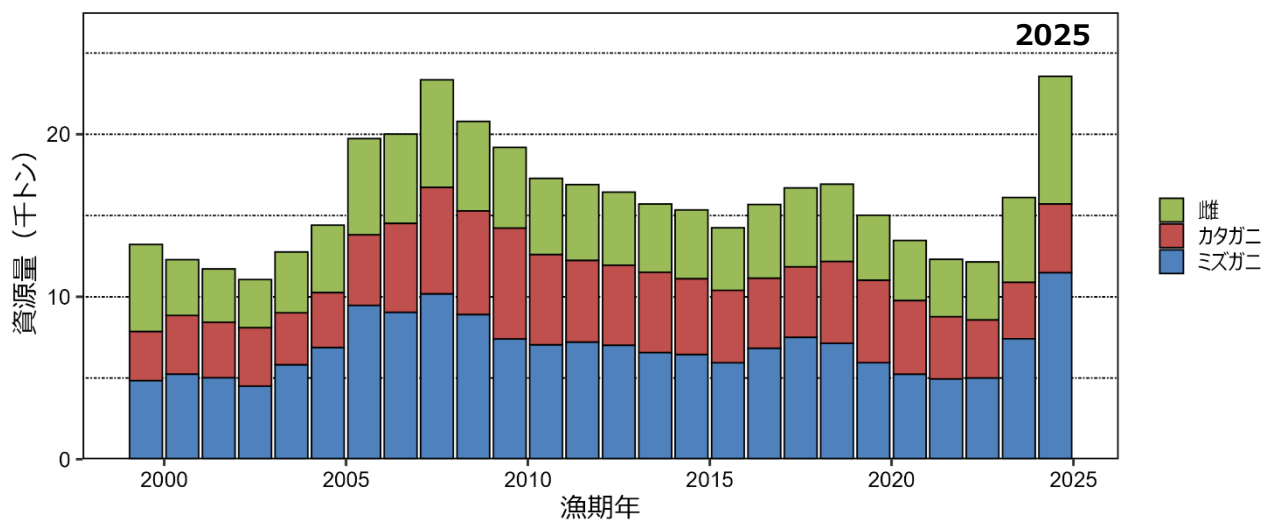


図4 日本海A海域（富山県以西）における推定資源量
（水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より）
※図4におけるミズガニは、漁期開始前に脱皮をした90mm以上の個体